

株式会社 中村建設

【本 社】神奈川県横浜市鶴見区矢向 2-8-31

【営業所】神奈川県横浜市鶴見区矢向 3-2-17

URL : http://www.nakamura-kensetsu0819.com

足場の組み立てをメインに、土工工事や鋼構造物工事、機械器具設置工事、運搬配送などを手掛ける『中村建設』。関東全域を中心に事業を展開し、確かな技術と実績を蓄積している会社だ。本日は竹原慎二氏が訪問し、同社を率いる中村社長にインタビューを行った。

中村 祐樹

代表取締役



竹原 慎二

元 WBA 世界ミドル級チャンピオン

「良い方との出会いがあったんですね！その後、「親方に鍛えてもらったけれど、自分の力はどれくらいだったのだろう」と思い、大きな会社に入ってスカイツリーなど大きな仕事に携わりました。そして存分に力を発揮することができ、「本当にこの世界に入って3〜4年？」と言われることもあるほど高く評価され、様々な方に可愛がっていただきました。横のつながり、縦のつながりを持つ中で、「人を大切にすることが絶対条件」という学びも得られ、経

方で、厳しくも温かく育てていただきましたね。ある時は私が仕事に身が入っていませんことを見かねたので、「馬鹿は身体を動かせ」と言われたこともありましたが、学歴も特技もなく、そんな私に何ができるのかと考えると、やはり身体を動かす事しかできない——この仕事に「覚悟」を持つことができた言葉でした。結局親方の中では3年ほど働き、基礎となる部分を磨かせていただいたと思います。



中村 祐樹

修業時代に学んだ「つながりの大切さ」を胸に  
従業員と幸せを分かち合い、さらなる高みを目指す

中村社長は、これまでどのような道程を歩んでこられたのでしょうか。

職人が着ている作業着に憧れ、16歳で建設の世界に飛び込みました。当時の親方が友達のお兄さん

営者としての人との向き合い方も学ばせていただいたと思います。その後、3〜4年ほど勤めた後に独立。元々私自身は独立志向はなかったのですが、知り合いの方が勧められて、独立資金まで用意して背中を押して下さったんですよ。

「よほど信頼されていたんですね。実際に独立してみてもいいかでしたか。」

考えなければならぬことが多く、毎日「がたんやわんやでした（笑）。それでも人に恵まれてやがて仕事が安定し、今は30〜40人の従業員に囲まれています。私自身も経験を積んで様々な物事に冷静に対応できるように became 感じますが、経営者として

ではまだまだ勉強の身だと思っています。

「事業も社長ご自身も、順調に成長してこられたことが窺えますね。多くの従業員さんを束ねる大変さは感じますか。」

そうですね。ただ、嬉しいことに私のもとに、指揮を執る3人の従業員がいるんです。彼らが連携を取って若い人をまとめてくれるので、私は安心して営業などに専念できています。もちろん私から従業員にできることも多々あります。たとえばプライベートを充実させるために寮には必ずワンルームを用意するなど、日々をより良く過ごせる環境づくりに努めています。

「それは従業員さんも嬉しいでしょう。最後に今後の展望をお聞かせ下さい。」

やはり現場で働く人たちが一番の「営業」。他所の会社さんがその働きぶりを見下さることで仕事につながっていきま。ですから質の高い仕事や、印象がよく安心感を持つ言動を心がけていきたいですね。つらいこともありますが、従業員たち皆で、幸せや楽しみを分かち合い、より高みを目指していきたいです！

Commemorative Photo



「中村社長は、一番の従業員さんを見守る経営者だ」とおっしゃいました。

guest comment